

ます。

素大句碑

素大の句碑の碑面には

“ 世ならぬと おもへば涼し うみの上 ”

句碑の裏面には、『文化元年甲子之暮春 為鶯々舎主人建立』と刻まれています。

素大は、夜叉袋羽立出身の俳諧を愛した風流人でした。豪農村井徳之丞の6代目の戸主で、名を金之丞といい、早くから俳諧に親しみ、蕉風の奥羽四天王と称された吉川五明の門下となって、広く交友を結び、京都、江戸に遊歴して俳諧の道を究めた人です。

天明の頃、毎年伊勢参りを重ねて、願人踊りに伊勢音頭の手振りを取り入れるなど、芸域の広い風流人でした。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」” から

NTT東日本秋田支社

せいげんじ 清源寺

森山の奥地に東谷寺という密教寺院が永禄6年（1563）三浦氏落城の兵火で焼け、後に瑞天上人が押切村と称した現在地に草庵を結んだと伝えられています。さらに天正12年（1584）安東実季が不運の最後を遂げた三浦盛季の鎮魂のため建立し、石頭院と改めました。

寺名の由来は、中国の禅宗の祖、青原行思の衣鉢を継いだ石頭希遷の名からとっています。しかし後の慶長10年（1605）初代秋田藩主佐竹義宣が放鷹の折この地に寄ったとき、「師の名」にしてはと進言されたのを受け「青原寺」としました。しかしその後、幾度かの火災に遭ったことから、水にちなむ「さんずい」を付して現在の「清源寺」にしたといわれています。

境内入り口には、**明治天皇行在所記念碑**や**観農嘉**

蹟の碑があります。

明治天皇行在所記念碑

この碑は明治14年（1884）9月14日、明治天皇が東北御巡幸のおり、一日市村曹洞宗清源寺に御宿泊なされたことを記念した記念碑です。この日天皇は能代をご出発なされ、悪天候のなか、午後3時三倉鼻にお着きになりました。同所御野立所に御小休なされ、八郎湖、男鹿などの風景を御観望なされ、同5時清源寺の行在所にお着きになり、翌15日、秋田市へ向けご出発なされました。この碑は御巡幸50年を記念し、昭和5年9月14日に建立したものです。

観農嘉蹟

明治天皇御巡幸の際、畠山善太郎が「稲刈り作業」を天覧に供したことを記念し建立したものです。碑は昭和3年11月14日、善太郎の息女畠山登美恵が停蹕（ていひつ）された大道一番地に建てたが、のち現在地に移建したものです。なお、畠山為蔵の書です。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」” から

NTT東日本秋田支社

せきのさわ 関ノ沢

八郎湯 小池 桑ノ木

沢は谷川の意。

1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名

そえがわ

そえがわ
副川神社

そえがわ

式内社として県内に三つあった神社の一つ。戦国時代に荒廃し、江戸時代にはその名残すら残っていなかったという。佐竹氏が秋田郡の鎮圧のため高岳山に新たに副川神社を建立した。本来は仙北